



令和4年3月3日

東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会

発行人 宮崎 倉太郎

編集人 小高 和子

事務局 東京都葛飾区立宝木塚小学校

葛飾区宝町2-29-23

☎03-3693-4788

「好きやねん大阪」から「2022TOKYO」へ～全国大会報告～

東京都小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会

副会長 景山 与賜也

(葛飾区立北野小学校長)

第30回全国小学校生活科・総合的な学習の時間研究協議会大阪大会が令和3年11月4・5日に開催されました。1日目はオンライン開催、2日目は、大阪市内の2つの小学校を会場に公開授業、課題別分科会が行われました。新学習指導要領全面実施後、全国大会で初めて公開授業（一部ライブ配信）を実施できたほか、2年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症に対応した様々な研究実践をオンラインを通じ交流でき、歴史的かつ大変意義のある大会になりました。1日目は、オンライン開催でしたが、東京都が次年度開催県であることから、宮崎倉太郎会長をはじめ役員6名が参加し視察してきました。

1 研究主題から

今大会の研究主題は「好きやねん 大阪」副主題「人・地域から学び 未知の時代を生き抜く力を育成する」は、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、生活科・総合的な学習の時間」の実践・研究の重要性を意識したものです。

研究主題は、現在どんなに不安や困難を抱えても「自分たちは周りの人たちと支え合って生きていく」「自分たちの町が好き」。ここから物事を始めようという意味が込められていました。副主題も、著しく制限された「人とのつながり」の必要性を改めて実感・強調したものでした。

2 研究の視点

視点の一つ「資質・能力を育む探究的な授業づくり」が特徴的でした。以下の2点の手立てを用いて研究主題に迫っていました。

(1) 「探究ペタ」による活動計画の見直し

「探究ペタ」とは、鳴門教育大学准教授泰山裕先生が提唱する探究的な学習のプロセス全体と1時間1時間の授業をつなぐ手立てのこと。

(2) 「思考ツール・ルーブリック」の活用

授業の毎時間、ルーブリック（行動目標）として「S」レベル（プラスα、より質的な高まりがある姿）「A」レベル（めあてが達成できた子供の姿）を掲示し、教師の支援につなげていたこと。

3 課題別分科会・シンポジウム

「課題別分科会」は、大阪の研究の3つの視点「資質・能力の具体化」「カリキュラムマネジメント」「探究的な授業づくり」ごとにオンラインと誌上発表の2形式で実施されました。東京都からは、C分科会の山田雅代先生（世田谷・世田谷小）が提案者、野尻史子校長先生（北区・滝野川もみじ小）が助言者として発表しました。シンポジウムでは、田村学先生、加藤智先生、泰山裕先生、小島亜香里先生（関西大学非常勤講師）によるパネルディスカッションが行われました。

閉会行事の次年度開催県の挨拶では、五輪開催決定を模し、「2022TOKYO」と記した紙を示しながら東京大会のPRをしました。

感染症下のもと、全国大会を開催して頂いた大阪の先生方に心から感謝の意を表すとともに、大阪の運営方法が大変参考になり、次年度東京大会開催に向けた決意を新たにすることができました。

C分科会(生活科)全国大会での発表
「生活科の深い学びを支える

表現活動の工夫」

昭島市立光華小学校 安藤 浩太

1 研究主題について

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説生活編によれば、生活科においては、「表現し、考えることができるようにする」と記述されているように、表現しようとするを通して思考すること(思考と表現の一体化)を目指しており、そのことによって気付きの質が高まることが求められる。本分科会ではこれまでに、表現活動に内在する3つの機能(目的・対象・方法)に着目し、これらを明確にした上で単元指導計画に位置付ける(教師の指導性を表現活動に埋め込む)ことや、活動において児童が表現した言葉や絵などを気付きの質の高まりとの関係で分析してきた。今年度は、そこに思考を加えて分析を深め、生活科の深い学びを支える表現活動の在り方の研究を進めた。

2 研究の内容と方法

(1) 単元指導計画の工夫

気付きの質の高まりの3つの在り様(①無自覚から自覚、②個別から関連付け、③対象から自分自身)を参考に、どの小単元で①~③のどれを目指すのかを明確化した単元指導計画を作成する。

(2) 「逆向き設計」による表現活動の設定

(1)で明確に想定した気付きの質の高まりを基に、本分科会が「6つの考える方法」と呼んでいるものから、本単元において特に活用・発揮を期待する思考を選択する。その思考の方法を踏まえて、表現活動に内在する3つの機能を考えながら表現活動を設定する。

(3) 表現活動における手だての明確化

(2)において設定した表現活動によってより豊か学びが実現できるように、①活動の流れなどの時間的な視点、②環境構成などの空間的な視点、③教師の言葉かけや関わりなどの人的な視点の3つの視点から手だてを明確化する。

3 成果と課題

表現活動の3つの機能と思考、気付きの質の高まりとの関連性について整理することで、ねらいの実現に向けた具体的な指導を行うことができた。

単元によって、気付きの質の高まりの様相は異なると思われるため、単元ごとに児童の姿を想定し、それを基に、気付きと思考、表現活動との相乗効果について整理・検証していきたい。

A分科会(生活科)栃木大会(関東ブロック)での発表
児童が思いや願いをもち続け、

深い学びを実現していく単元づくりの工夫

—環境構成の工夫やカリキュラムマネジメントの充実を通して—

目黒区立向原小学校 中村 絵理

1 主題設定の理由

生活科では、児童が身近な生活の中で思いや願いをもってすすんで対象と関わることや、活動の中で新たな思いや願いをもって次の活動へ取り組むことを繰り返すようにすると、学びが深まり、自立し生活を豊かにしていくことができるようになる考えた。

2 目指す姿

生活科において、身近な自然や物・地域・人と関わり良さに気付き愛着をもつことは、総合的な学習の時間において、身近な問題に目を向けて課題解決をしていく姿につながる。このような姿が、どのような状況でも逞しく生き、持続可能な社会を創造することにつながるのではないだろうかと考え、目指す姿を以下の通り設定した。

生活科の学習における深い学びを実現している姿

- (ア) 思いや願いをもって自己決定し、意欲的に取り組んでいる
- (イ) 自分の考えを深めたり、広げたりしている(没頭、新たな気付き)
- (ウ) よさや楽しさ、面白さなどに気付いている
- (エ) 自分自身の生活を楽しく豊かにしようとしている

3 実践報告

指導の工夫と児童の姿

- ・発見したことを表現したいタイミングが異なることから、付箋やミニホワイトボードで共有し、認識を深めることができた。
- ・付箋を見て共感した際に「いいねシール」を貼ることで、友達の気付きにも興味をもった。
- ・ホワイトボードや付箋等に、思考ツール(座標軸、マトリクスやKJ法等)の要素を取り入れた。思考を整理して交流することができた。
- ・地域の方に野菜博士として協力を依頼するなどした。自分で調べて解決しようとしていた。
- ・栄養士によるおすすめレシピの紹介、読書学習司書による野菜に関する絵本の読み聞かせや図鑑の紹介を行った。興味・関心を広げ、自分の生活とつなげていた。

「5年 減災・防災プロジェクト」

新宿区立落合第三小学校 教諭 大関 真英

1 研究主題について

「やっちゃえ OCHISAN」

子どもの思いや願いを生かし、
豊かな生活や社会を築いていく
生活科・総合的な学習の時間
～児童運転で共生社会を目指す～

2 単元目標（全70時間）

自然災害から多くの人の命を守るために、自然災害そのものや命を守るための対策などについて調べたり、地域で活動している方や防災の専門家と協働して、活動したりすることを通して、災害から命を守るためには、多くの方々の関わりや協力が必要であることを理解する。地域や学校の防災の在り方について考えるとともに、学んだことを生かし、自らの生活や行動に生かそうとする心情や態度を育てる。

3 小単元2の概要

「小単元1での減災・防災に対する問題点」

（現代社会の視点・地域の視点）

- ・地震や水害などで、たくさんの命が奪われている。
- ・地域の人たちと協力して、減災・防災に対する、命を守ることを考える場が少ない。

小単元2：「地域の人へ減災・防災について伝えるための不安感を取り除き、地域の人たちに伝えたい具体的な対策や共感していただけの方法を考えよう。」（25時間）

4 本時の目標（課題設定）

「地域の人へ減災・防災対策について伝えるために、不安感を取り除くことができるよう、仙台の齋藤浩平先生への質問を考えることができる。」

5 公開研究授業の成果と課題

- ・子どもたちと「めあて」「学習活動展開」「話し合いの仕方」「次への見通し」を丁寧に考えて決めることができた。
- ・次回から、めあてに対するまとめを白板に可視化する。
- ・他教科の学習が生かされず、他教科の見方・考え方を総合的に働かすことを大切にする。
- ・「どんな揺れか。」「何をしていたか。」リアルな体験をした齋藤先生に聞きたいという意欲が高まっていた。
- ・話し合いに入る前に「齋藤先生を意識した内容を考えること」を確認してから話し合いに入る必要があった。

夏季研究会報告

日時 令和3年8月28日(土)

方法 オンライン形式

内容 令和4年度全国大会東京大会会場校より挨拶、論点整理委員会からの報告、A分科会(関東大会発表)C分科会(全国大会発表)からの中間発表、研究員からの報告各分科会交流会

挨拶 文部科学省教科調査官 加藤 智 先生

講演 「生活科・総合的な学習における深い学び
～全国大会に向けて～」

講師 文部科学省教科調査官 齋藤 博伸 先生

概要 今年度の夏季研究会は新型コロナウイルス感染症拡大のため、会場校に参集する方法ではなく、オンライン開催とし、時間を短縮して行った。本会に向けて、各分科会も思うように分科会が開けなかったり、授業実践を見合うような機会も減ったりすることがあったが、オンラインで分科会を開催するなど、工夫して研究を進めてきた。

午前の部は、令和4年度全国発表の会場校の校長先生より挨拶をいただいた。論点整理委員会からは、主題の設定理由や研究の方向性、視点が示された。A分科会（関東大会）、C分科会（全国大会）からの中間発表が行われた。今年度の研究員の自己紹介と研究の方向性が示され、大きな拍手が画面越しではあるが送られた。その後、各分科会の交流の時間をもった。ブレイクアウトルーム機能を活用して、7、8人グループを作り、それぞれの分科会の研究の現状や悩み等を語り合った。各グループとも活発な意見交換が行われ、今後の研究の糧にすることができた。

午後は文部科学省教科調査官の加藤智先生よりご挨拶をいただき、その後、同じく文部科学省教科調査課の齋藤博伸先生より生活科・総合的な学習における深い学びについて、全国の学校の実践も踏まえて詳しくご講演をいただき、全国大会に向けての指針を示していただいた。

令和4年度

第31回 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
第24回 関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

東京大会

大会主題

新たな価値の創造 ～深い学びの実現を目指して～

主催 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
東京都小学校生活科・総合的な学習教育研究会
後援 文部科学省 東京都教育委員会 全国連合小学校長会 東京都公立小学校長会
(予定) 新宿区教育委員会 大田区教育委員会 世田谷区教育委員会 練馬区教育委員会
東京都小学校教育研究会連合 (財)日本教育公務員弘済会

期日 令和4年11月10日(木)～11日(金)

会場 1日目(午後) 四谷区民ホール〈東京メトロ丸ノ内線「新宿御苑前」徒歩5分〉
(全体会・基調提案・記念講演・全国理事会)
2日目(全日) ○新宿区立落合第三小学校 ○大田区立道塚小学校
○世田谷区立世田谷小学校 ○練馬区立開進第三小学校
(授業公開・課題別分科会等)

記念講演(予定) 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 齋藤 博伸 先生

課題別分科会の発表地区

会場	視点	前半		後半	
		生活	総合	生活	総合
落合第三小 (新宿区)	視点1	島根県	埼玉県	山形県	東京(E分科会)
	視点3	愛媛県	石川県	群馬県	兵庫県
	視点4 生活総合	東京(G分科会)	北海道	京都府	大分県
道塚小 (大田区)	視点1	東京(A分科会)	青森県	広島県	和歌山県
	視点2	愛知県	神奈川県	香川県	熊本県
世田谷小 (世田谷区)	視点2	東京(B分科会)	新潟県	栃木県	鹿児島県
	視点3	宮城県	滋賀県	山口県	東京(F分科会)
開進第三小 (練馬区)	視点1	茨城県	岩手県	福岡県	富山県
	視点2	奈良県	東京(D分科会)	徳島県	千葉県
	視点3	岡山県	福井県	東京(C分科会)	大阪府

※ 視点1：学習過程 視点2：関わり 視点3：表現 視点4：生活・総合共通